

小長井義正市長の

平成30年度施政方針

「生涯青春都市

富士市」

の実現に向けて



躍進の年

市長は、市議会2月定例会で2期目の市政運営の基本姿勢と平成30年度の重点施策を盛り込んだ「施政方針」を発表しました。今回は、その基本姿勢と平成30年度の主要事業を紹介します。

## 2期目の基本姿勢

「まちに元気」を

持続的に発展するまちとなるよう、産業の活性化や賑わいを創出します

● CNF(セルロースナノファイバー)による産業振興や新たな工業団地の整備を推進するとともに、「富士のお茶」、「富士ヒノギ」、「田子の浦しらす」といった特産品のブランド力と全国に向けた発信力を強化し、販路拡大を図ります。

● 市内外の観光スポットを効果的に結び、滞在型観光につながる取り組みを関係団体や周辺自治体と連携して進めるとともに、田子の浦港周辺のにぎわい創出や、JR新富士駅及びJR富士駅周辺の整備を推進します。

● 富士川緑地の整備や、富士総合運動公園の総合体育館の建設及び宿泊施設の誘致を推進するとともに、東京2020オリンピック・パラリンピックの事前合宿誘致や文化プログラムに取り組みます。

「人に安心」を

安心して暮らし働いていただけるよう、危機管理体制や人口減少・少子高齢化対策を強化します

● 情報伝達や被災者支援の体制を強化するとともに、田子の浦港周辺

の津波対策を実施し、南海トラフ巨大地震において想定される死者数を「ゼロ」にすることを目指します。

● 結婚支援事業、不妊・不育治療の支援、待機児童解消に向けた保育事業、子ども医療費助成制度の対象拡大など、結婚・出産・子育ての切れ目ない支援を行います。

● 教育委員会と連携し、いじめのない学校づくりや各学区の実情に応じた小中連携・一貫教育を目指すとともに、大学や専門学校などの高等教育機関の誘致を図るなど、教育環境の充実を図ります。

● 高齢者の皆さんが住み慣れた地域でいつまでも暮らし続けることができるよう、医療、介護、予防、生活支援、住まいを提供できる地域包括ケアシステムを構築します。

● 本市の基幹病院である中央病院の建てかえに向け、取り組みます。

● ユニバーサル就労の推進により、多様な働き方を可能にする社会の実現を目指します。

「まちに元気」をもたらす「人に安心」を届ける施策と、ブランドメッセージ「いただきへの、はじまり富士市」をかけ合わせ、シティプロモーションをより一層展開します。産業界や各種団体などの皆さんとの連携によるさまざまな取り組みを市内外で実施し、より多くの人に本市で暮らしやすさやまちづくりへの参画の楽しさに共感していただけるよう努めます。

シティプロモーションの一層の推進

中核市への移行を目指しオール富士市で議論

本市が、富士山の麓の中核都市として確固たる地位を確立するとともに、市民の皆さんがいつまでも安心して快適に暮らせるよう、中核市への移行を目指し、検討します。

本市が中核市に移行した場合、自立した行政経営や富士山を取り巻く圏域における地域経済の発展、保健・福祉・環境分野を中心としたより質の高い市民サービスの提供などにつながることを期待できる一方、保健所の設置や新たな権限移譲により事業費の増加が見込まれています。市民の皆さんとオール富士市で議論を進めます。

平成30年度の位置づけ

「市民と共に創る

生涯青春都市 富士市

躍進の年」

今年度を「市民と共に創る生涯青春都市 富士市 躍進の年」と位置づけ、第五次富士市総合計画後期基本計画の都市活力再生戦略に位置つけた35の施策のうち、新産業創出への支援、子育てを地域全体で支える環境づくり及び子ども・子育て支援サービスの充実、危機管理体制の強化、シティプロモーションと富士山活用の推進、まちなかの拠点の再生を図る施策を重点的に展開します。

また、今後も本市が産業都市として力強く発展し続け、子どもたちの笑顔があふれ、若い世代が将来に希望を抱き、高齢者が生きがいを持って元気に暮らし、高齢者が生きがいを持って元気に暮らしていけるよう、本市の将来を見据えた新たなまちづくりの指針となる「第5次富士市総合計画」の策定に着手します。

4〜7ページでは、「第5次富士市総合計画」に位置つけた7つの柱に沿って、具体的な事業を紹介します。